

この肥料は、有機態チツソが52%含有されていて、特別栽培用に作られた有機化成肥料です。

「土改材は『ひとつりA（エース）』を使っている。冷害対策として使い始めた。もう15年になる。今ではすべての田んぼで使っています。」

良質米栽培のためには機化成と土改材を駆使



収穫間もない「つや姫」。

■ 次につなげる!
さらに拡大して!!

■編集後記
震災時の状況を、高橋さん家族は淡々と語ってくれました。私は震え上りました。
枯れあがった松並木、その松すら根こそぎなくなってしまった海岸線。
そんな風景の中、皆さんの笑顔がとても強く心に残りました。東北の人は強い。本当にそう感じさせられた取材でした。

「今栽培しているのはひとつめほれ9へクター、つや姫2・5へクタール、みやこがねもち0・5へクター。」

父親の一夫さんは中学2年の時に現在父様を亡くされ、27歳の時に現在の規模まで拡大されました。

「つや姫を始めたのは二年前。倒伏しにくいし、収穫時期がひとめぼれより二週間ほど遅い。作業分散が出来て都合がいい。」

そしてつや姫の食味を絶賛されています。

「これは全然違う。完全に食味が良い。冷めても固くならないし、おにぎりにしたら最高だ。」

A close-up photograph of ripe rice grains hanging from a stalk. The grains are a golden-yellow color, indicating they are ready for harvest. The image captures the intricate details of the rice grains and the surrounding green leaves of the plant.

A photograph of a family of five standing in a grassy field under a clear blue sky. On the far left is an elderly man with grey hair, wearing a light grey polo shirt and dark trousers with a belt. Next to him is an elderly woman with dark hair, wearing a black and white horizontally striped top and a plaid skirt. In the center, a young man with dark hair tied back holds a baby who is wearing a striped onesie. To the right of the baby, another young man with dark hair and a mustache, wearing a black button-down shirt, stands next to a young woman with long dark hair, wearing a grey t-shirt. The family appears to be posing for a group portrait.

震災を乗り越えて 有機化成と土改材で良質米「つや姫」栽培



2011年3月11日。東日本の太平洋沿岸を大津波が襲いました。その土地で、復興に向けて力強く歩みを進める高橋さん親子を、今回は取材させて頂きました。高橋さん親子は、水稻30ヘクタールを栽培する生産者ですが、未だ20ヘクタール近くが震災の影響で耕作できない状況です。しかし、前向きに良質米の栽培に取組んでおられます。今回は使用されている資材の特徴や、将来の夢についてお伺いしました。



 サンアグロ
SUN AGRO CO., LTD. 

現地レポート 宮城県山元町



ここから見える風景すべてが津波に呑み込まれたそうです。



イチゴの産地だったこの地域では、新しいハウスが建てられています。

■全てがガレキに覆われ・
不安に苛まれた春

「この田んぼまで津波が来ました。その後はガレキが物凄くて。作付出来る状態ではありませんでした。」息子の良則さんは就農四年目の春、震災を経験されました。

「その年は7ヘクタールだけ栽培することができました。それ以外はまた作ることが出来るようになるか分からず、本当に心配でした。」

高橋さん一家が栽培されている圃場の三分の二以上が津波の被害を受けました。

「うちは機械などは被害に合わなかつたので、すぐ始めることが出来ました。早くから栽培出来た圃場は水路式で、バルブ式の圃場は整備に時間がかかります。震災の翌年から徐々に栽培出来るようになります。今は12ヘクタール栽培します。残り18ヘクタールも来年から作付出来る予定です。」
撮影した圃場のすぐそばで、重機による圃場整備が行われていました。
津波の被害を受けた圃場も、震災翌年には少しづつ作付が出来るようになつたそうです。
何度も放映された大津波や、ガレキの山の映像を思い浮かべると、その復活の速さに驚かされました。